

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年2月9日 (2017.2.9)

【公開番号】特開2015-144970(P2015-144970A)

【公開日】平成27年8月13日 (2015.8.13)

【年通号数】公開・登録公報2015-051

【出願番号】特願2015-104347(P2015-104347)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月27日 (2016.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が流下する遊技領域と、  
 遊技球を前記遊技領域の上部へと打ち込むための遊技球発射手段と、  
 前記遊技領域に設けられ、前記遊技球が入賞可能な始動口と、  
 前記遊技領域に設けられ、遊技球が入賞可能な開放状態と、遊技球が入賞困難な閉鎖状態とに切り替わり、通常は前記閉鎖状態に保持されている大入賞口と、  
 前記始動口への遊技球の入賞を条件に、前記大入賞口を開放状態にする大当たり遊技を行うか否かの大当たり当否判定を含んだ始動口入賞判定を行う始動口入賞判定手段とを備えた遊技機において、

前記始動口としての第 1 始動口と第 2 始動口とを、それらに共通した第 1 基幹流下経路より下流側に別個に設け、前記第 1 基幹流下経路を通過した遊技球が前記第 2 始動口に到達するより前記第 1 始動口に早く到達するように配置すると共に、前記第 1 始動口より前記第 2 始動口に入賞した場合の方が遊技者にとって有利となる前記始動口入賞判定を行うように前記始動口入賞判定手段を構成し、

前記第 1 基幹流下経路の下端部には、遊技球を前記第 1 始動口に入賞させるように案内する第 1 案内流下経路と、遊技球を前記第 1 始動口に入賞させないように案内して前記第 2 始動口に向かわせる第 2 案内流下経路とが連絡され、

前記第 1 始動口は、前記第 1 案内流下経路への進入口の下に離して配置されかつ前記進入口に向かって開口し、

前記第 1 案内流下経路のうち前記進入口と前記第 1 始動口との間に連通し、前記進入口と前記第 1 始動口との間を斜め下方に落下して前記第 1 始動口から逸れた遊技球又は前記第 1 始動口の開口縁で跳ね返った遊技球を受け入れて前記第 2 始動口に向かわせる第 1 入賞逸脱経路を備え、

前記第 1 入賞逸脱経路を通過して前記第 2 始動口に向かう遊技球が通過する経路と、前記第 2 案内流下経路を流下して前記第 2 始動口に向かう遊技球が通過する経路とが合流していることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記第 2 案内流下経路とは別個に遊技球を前記第 1 始動口に入賞させないように案内して前記第 2 始動口に向かわせる第 2 基幹流下経路を設け、その第 2 基幹流下経路と前記第

1 基幹流下経路とを、それらに共通の共通基幹経路の下端部から二股に分岐させ、

前記第1入賞逸脱経路は、前記第2案内流下経路に隣接して設けられると共に、前記第2基幹流下経路と前記第2案内流下経路の下端同士の合流部に開放していることを特徴とする請求項1に記載の遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記目的を達成するためになされた請求項1の発明に係る遊技機は、遊技球が流下する遊技領域と、遊技球を遊技領域の上部へと打ち込むための遊技球発射手段と、遊技領域に設けられ、遊技球が入賞可能な始動口と、遊技領域に設けられ、遊技球が入賞可能な開放状態と、遊技球が入賞困難な閉鎖状態とに切り替わり、通常は閉鎖状態に保持されている大入賞口と、始動口への遊技球の入賞を条件に、大入賞口を開放状態にする大当り遊技を行うか否かの当否判定を含んだ始動口入賞判定を行う始動口入賞判定手段とを備えた遊技機において、始動口としての第1始動口と第2始動口とを、それらに共通した第1基幹流下経路より下流側に別個に設け、第1基幹流下経路を通過した遊技球が第2始動口に到達するより第1始動口に早く到達するように配置すると共に、第1始動口より第2始動口に入賞した場合の方が遊技者にとって有利となる始動口入賞判定を行うように始動口入賞判定手段を構成し、第1基幹流下経路の下端部には、遊技球を第1始動口に入賞させるように案内する第1案内流下経路と、遊技球を第1始動口に入賞させないように案内して第2始動口に向かわせる第2案内流下経路とが連絡され、第1始動口は、第1案内流下経路への進入口の下に離して配置されかつ進入口に向かって開口し、第1案内流下経路のうち進入口と第1始動口との間に連通し、進入口と第1始動口との間を斜め下方に落下して第1始動口から逸れた遊技球又は第1始動口の開口縁で跳ね返った遊技球を受け入れて第2始動口に向かわせる第1入賞逸脱経路を備え、第1入賞逸脱経路を通過して第2始動口に向かう遊技球が通過する経路と、第2案内流下経路を流下して第2始動口に向かう遊技球が通過する経路とが途中で合流しているところに特徴を有する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項2の発明は、請求項1に記載の遊技機において、第2案内流下経路とは別個に遊技球を第1始動口に入賞させないように案内して第2始動口に向かわせる第2基幹流下経路を設け、その第2基幹流下経路と第1基幹流下経路とを、それらに共通の共通基幹経路の下端部から二股に分岐させ、第1入賞逸脱経路は、第2案内流下経路に隣接して設けられると共に、第2基幹流下経路と第2案内流下経路の下端同士の合流部に開放しているところに特徴を有する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】  
【手続補正 6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 0  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 1  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 2  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 3  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 0】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 4  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 5  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 6  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 7  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 4】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 8  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 1 5】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 1 9  
【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

このように、第 1 基幹流下経路に進入した遊技球は、遊技者にとって有利な第 2 始動口に必ずしも案内されるわけではなく、遊技球が第 1 基幹流下経路の下端部に到達したときの入賞調整開閉部材の状態によっては、第 2 案内流下経路の手前で第 1 案内流下経路に進入して、第 2 始動口よりも遊技者にとって不利な第 1 始動口に案内されることがある。これにより、遊技球が第 1 基幹流下経路の下端部に到達するタイミングと、入賞調整開閉部材が有利閉鎖状態となるタイミングとが一致して、遊技球が無事に第 1 基幹流下経路から第 2 案内流下経路へと進むことができるのか否かといった緊張感やスリル感を遊技者に与えることができ、遊技の趣向性を向上させることが可能となる。

また、第 1 案内流下経路に進入した遊技球が必ずしも第 1 始動口に入賞するのではなく、第 1 案内流下経路の進入口と第 1 始動口との間を斜め下方に落下して第 1 始動口から逸れた遊技球や、第 1 始動口の開口縁で跳ね返った遊技球は、第 1 入賞逸脱経路を通して第 2 始動口に向かう。これにより、第 1 案内流下経路に進入した場合でも、第 2 始動口への入賞に望みを抱かせることが可能となる。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 2 9  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 4】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 0  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 5】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 1  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 2  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 3  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 4  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 2 9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 5  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 0】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 6  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 3 7  
【補正方法】削除  
【補正の内容】  
【手続補正 3 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 5 7  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

## 【 0 0 5 7 】

< 右側流下領域 R b の流下経路について >

右側流下領域 R b の上部には、その右側流下領域 R b を流下する遊技球の全てが通過する共通基幹経路 5 0 が設けられている。共通基幹経路 5 0 は、遊技球が 1 つだけ通過可能な幅をなして上下方向に延び、その共通基幹経路 5 0 の下端部に、第 1 基幹流下経路 5 1 と第 2 基幹流下経路 5 2 とが二股状に連絡されている。第 2 基幹流下経路 5 2 は、第 1 基幹流下経路 5 1 との分岐部から遊技領域 R の外縁部に沿って下方に延びており、その下端部の排出口 5 2 B が、始動ゲート 3 0 に向かって左斜め下方に開放している。また、第 2 基幹流下経路 5 2 は、遊技球をサイド始動口 3 2 A に入賞させないように案内して、始動ゲート 3 0 や、その下流側に配置された特別始動口 3 3 A、第 1 及び第 2 のアタッカー口 3 4 A、3 5 A に向かわせる。

## 【 手 続 補 正 3 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 6 1 】

図 4 に示すように、第 1 基幹流下経路 5 1 は、第 2 基幹流下経路 5 2 との分岐部から、第 2 基幹流下経路 5 2 よりも大きく左右に蛇行しながら下方に向かって延びており、遊技球が通過する通過時間が、第 2 基幹流下経路 5 2 よりも長くなるように構成されている。第 1 基幹流下経路 5 1 の下流側には、サイド始動口 3 2 A、特別始動口 3 3 A、始動ゲート 3 0 等が設けられている。

## 【 手 続 補 正 3 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 7 8 】

## 【 表 1 】

第1の当否判定権	特典付き当り	V入球あり	確変有り・時短有り状態
		V入球なし	確変無し・時短有り状態
	特典無し当り	V入球あり	確変有り・時短無し状態
		V入球なし	確変無し・時短無し状態
第2の当否判定権	特典付き当り	V入球あり	確変有り・時短有り状態
		V入球なし	確変無し・時短有り状態